

平成28年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成28年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月8日月曜日及び同月9日火曜日、一般選抜が3月7日月曜日、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月7日月曜日、一般選抜が3月17日木曜日に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成28年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比275人の増）を考慮し、全日制課程の定員を12,435人（前年比120人の増、3学級の増）とした。

2 平成28年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校59校120系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を課しており、36校83系・科では作文を、19校31科では、小論文を課した。また、学校独自検査は7校8科で課しており、7校7科で学校作成問題を、1校1科で実技を課した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜（学力検査）の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科を実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜（学力検査）受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は24校77系・科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で22名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者については、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、6名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	平成28年度				平成27年度				平成26年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	12,435		640		12,315		640		12,515		640	
受検人員	5,754	10,686	140	241	5,821	10,812	130	272	5,693	11,109	149	306
受検倍率	1.96	1.22	1.17	0.45	2.07	1.23	1.08	0.51	2.04	1.21	1.24	0.57
合格人員	3,359	8,581	106	239	3,252	8,642	108	270	3,135	8,969	107	302
合格倍率	1.71	1.25	1.32	1.01	1.79	1.25	1.20	1.01	1.82	1.24	1.39	1.01

※ 受検倍率＝受検人員÷定員， 合格倍率＝受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する事項に係る能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉え、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、自分の考えを、理由を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識にとどまらず、言葉の意味やまわりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立ててほしいということを願って出題した。

1 の漢字の読みの平均正答率は89%、2 の漢字の書きの平均正答率は76.9%であった。漢字の読みでは、(1)から(4)までが90%を超え、ほとんどの受検者は読むことができていた。日常ではややなじみの薄い(5)譲渡が52.7%と低かった。日常生活で使用できる語彙を増やすためにも、漢字学習の重要性を確認することが必要である。書きでは(3)営むが92.7%と高い一方で、(5)専念が63.5%、(4)治めるが54.6%であり、誤りやすい漢字や同訓異字の正答率が低かった。

3 の単語に関する設問は正答率が61.2%であったが、その他の設問(4 敬語、5 の文の係り受け、6 四字熟語、7 の俳句)については正答率が高く、中学校での指導の充実がうかがわれる。今後も、伝統的な言語文化にも関心を広げ、日本語全般に関して、幅広く問題意識を持って学習に取り組みたい。

2 は、「御伽草子集」を素材として出題した。親子の情の深さをテーマとした文章であり、同内容の古文と漢詩とが併記されている。仮名遣い、文の意味、内容の把握などを問う問題を設定した。

3 の登場人物を識別する設問が83.4%と高く、2 の「かなはず」の理由を説明する記述問題が44.0%と例年より高い完全正答率であった。今年度は4 の設問で古文と漢詩の読み比べの要素のある設問が出題されたが、51.7%の正答率であった。全体に文章は平易で、受検者は概ね本文の内容を理解できていたといえる。

主語が省略される古文の特徴を踏まえて、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等を継続したい。また、言語文化を継承するという観点から

も、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わうなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、大河内直彦の『地球のからくり』に挑む」を素材として出題した。人類と農業との関係について論じた文章である。

選択問題については、いずれも8割を超える高い正答率であった。一方、記述問題については、本文からの抜き出しの設問3が62.1%、室素の重要性について説明する設問6の完全正答率が3.2%であった。なお、設問6の部分正答率は64.9%であることから、単に本文から抜き出すだけでなく、本文の表現を適切に用いて説明すること力を身に付けることが重要である。

説明的な文章の読解では、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が本文を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、グループで話し合ったりするなどの言語活動を通して、確実に力を付けていきたい。

4 は、岩城けいの「Masato」を素材として出題した。オーストラリアに移住し、何事にも自信を持てなくなっていた小学生の真人が、キャンベル先生との出会いにより勇気づけられる場面が描かれており、受検者にとっても読みやすい文章であった。文学的な文章の読解では、主観によらず、場面設定を踏まえ、それぞれの人物の心情や言動を押さえながら読み進めていくことが要求される。

選択問題については、登場人物の心情を問う設問1、5が9割前後の正答率であったが、これは受検者が共感的に読みやすかったためと思われる。しかし一方で、登場人物の心情ではなく、発言の意味について説明する記述問題の設問4では、部分正答率14.7%と低かった。

文学的な文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに意見を述べたりする学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

5 の作文は、「表現することは□□□□」というタイトルで、生徒会新聞に意見文を書くというものであり、これらの内容を適切に書く能力を評価するものである。

書くことや話すこと、更には身体表現なども含めて、自らの体験を振り返るなどして具体的な例を挙げながら、自分の考えとその理由を記述することを求めている。普段の生活の中において、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別や、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

国語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	99.5 %	2	1	66.2 % (66.2)	4	1	95.4 %		
		(2)	96.0 %		2	44.0 % (65.4)		2	76.8 %		
		(3)	99.6 %		3	83.4 %		3	12.2 % (64.4)		
		(4)	97.1 %		4	51.7 %		4	6.1 % (14.7)		
		(5)	52.7 %		5	71.1 %		5	86.7 %		
	2	(1)	86.2 %	3	1	80.7 %		6	6	63.0 %	
		(2)	87.4 %		2	90.2 %	5		(97.4 %)		
		(3)	92.7 %		3	62.1 % (64.5)					
		(4)	54.6 %		4	86.4 %					
		(5)	63.5 %		5	87.8 %					
	3	61.2 %	6		3.2 % (64.9)						
	4	96.3 %									
	5	81.3 %									
	6	80.7 %									
	7	80.0 %									

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 社会科のまとめとして **7** を出題し、その中で各分野の学習の成果を活用する力をみようとした。
- 3 基礎的・基本的内容を各分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 4 地図・統計・写真・年表等から必要な情報を適切に読み取り、適切に表現する力をみようとした。
- 5 分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野	融合	合計
選 択	6(12)	7(14)	6(12)	2(4)	21(42)
記 述	5(10)	6(12)	5(10)	1(2)	17(34)
論 述	2(8)	2(8)	1(4)	1(4)	6(24)
合 計	13(30)	15(34)	12(26)	4(10)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、広く地理、歴史、公民の各分野についての基礎的・基本的な知識及び理解度をみるようにした。全体的に正答率は高かった。

2 は、地理的分野のうち、世界の地理的事象に関する問題である。**1** と **3**(2) は、地図の活用に関する問題である。**1** は正距方位図法を適切に読み取る力をみるもので、正答率は31.4%、**3**(2) は目的に応じて使用する主題図を適切に選択する力をみるもので、正答率は59.7%ある。地図の活用については、その特色を理解したうえで、目的に応じて活用することに課題がみられた。**3**(3) は、新傾向の出題で、仮説の検証のために必要な情報について考察して、表現する力をみるものである。正答率は、15.1%であり、論述の問題の中では低い正答率であった。

3 は、地理的分野のうち、日本の諸地域の学習に関する問題である。学習指導要領において、日本の

諸地域については、地域の特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域の特色を追究することになっている。今回は、東北地方を素材として、その地域にみられる特色を自然環境や産業など複数の事象を関連付けて捉える力をみた。

4 の論述問題は、東北地方にみられる高速交通網の整備と他地域との結び付きに着目し、物資の移動の変化を考察するもので、正答率は35.6%であった。誤答の多くは、高速交通網の整備と東北地方の工業生産の変化を結び付けて論述することができていなかった。

4 は、日本の歴史に大きな影響を与えた外国との関わりをテーマとして、古代から近世までを扱った問題である。**5** は、南蛮貿易によって日本が輸出していた「銀」を解答する問題であったが、正答率は33.0%であり、誤答は香辛料、金、生糸などであった。

5 は、年表に示された近現代の主な歴史的事象についてを問う問題であった。**2** は、シベリア出兵の影響でおこった米騒動を説明した文を選ぶ問題であり、正答率は90.8%と高いものだった。**4** は、年代の古い順に並べ替える問題で、歴史を大きな流れの中で捉えているかをみるもので、正答率は28.2%であった。学習指導要領の目標では、歴史の大きな流れを各時代の特色を踏まえて理解させることになっている。その際には学習した内容を活用してその時代を大観し表現する学習活動を一層重視して、理解を深めていく必要がある。

6 は、公民的分野からの出題である。**1** は、満18歳以上に選挙権年齢が引き下げられたことについての会話文を素材として、主に政治に関する理解の程度をみる問題である。(2)では、天皇の国事行為に関する問題であったが、正答率は35.9%であった。このことについては、国民主権と関連させながら理解することが大切である。**2** は、主に経済に関する理解の程度をみる問題である。(3)では、クレジットカードを使用した消費活動を問う問題であり、82.4%という高いものであった。今後とも経済活動の意義の理解のために授業において身近で具体的な事例を取り上げていくことが必要である。

7 は、学習指導要領において、社会科のまとめとして位置づけられた「よりよい社会を目指して」という内容からの出題であり、三分野の学習の成果を活用する問題である。この単元では、課題を設けて探究し、自分の考えをまとめ、よりよい社会の形成に主体的に参画する態度を養うことを目的としている。**3** や **4** は、よりよい社会を築くために、現代社会が抱える課題の解決に向けた取組について、適切に考察する力をみる問題であった。**3** の正答率は38.3%であり、論述問題としては比較的高いものであった。**4** についても、79.1%という高い正答率であった。

社会学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	(1)	85.5 %	3	2	47.6 %	1	(1)	61.2 % (61.2)
		(2)	84.6 %		3	55.1 % (55.1)		(2)	35.9 %
		(3)	70.8 %		4	35.6 % (80.6)		(3)	67.0 % (69.2)
		(4)	66.1 %	4	1	57.3 %		(4)	97.4 %
	2	(1)	59.1 % (59.1)		2	33.2 % (74.8)		(5)	89.4 %
		(2)	68.2 % (68.2)		3	52.3 %	2	(1)	83.9 %
		(3)	73.7 % (86.0)		4	39.5 % (58.5)		(2)	61.1 % (70.4)
		(4)	83.7 % (84.6)	5	33.0 % (33.3)	(3)		82.4 %	
2	1	31.4 %	6	80.3 %	(4)	10.7 % (47.8)			
	2	51.3 %	7	44.7 % (44.7)	(5)	55.4 % (56.0)			
2	3	(1)	89.6 % (89.6)	5	1	72.4 %	7	1	5.6 % (5.6)
		(2)	59.7%		2	90.8 %		2	92.6 %
		(3)	15.1 % (33.6)		3	21.9 % (78.7)		3	38.3 % (60.5)
3	I	72.5 % (76.4)	4		28.2 % (28.2)	4		79.1 %	
	II	54.8 % (57.9)	5		91.8 % (91.9)				

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現・処理能力及び事象を数理的に考察し表現する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、資料の活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題を通して、数学全般に関わる基礎的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、直観的な見方、論理的に考察し表現する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、関数の基礎的・基本的な問題を通して、関数的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 5 資料の活用の領域では、資料の活用の基礎的・基本的な問題を通して、確率の考え方と統計的な見方や考え方を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、資料の活用のうち、いくつかの領域からなる融合問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な内容の理解力、計算力及び処理能力をみる問題であり、平均正答率は79.5%であった（昨年度は69.9%）。良好な結果であり、これからも基礎・基本の定着を図ってほしい。ただし、立体の体積、1次関数と方程式、中央値、三平方の定理の4分野は正答率が70%を下回った。いずれも基本的な内容だけに、確実に理解してもらいたい。

2 は、三つの領域（図形、資料の活用、関数）における理解力及び処理能力をみる基本的な問題であり、1は作図問題、2は確率、3は2乗に比例する関数の問題である。正答率は、1が65.5%、2が67.6%、3が50.1%であった。1と同様に、基礎的・基本的な内容について繰り返して学習することが重要である。特に、作図について

は、作図の方法と図形の性質を結びつけて理解することが大切である。

3 は、思考過程や計算過程を論述させることにより、数学的な処理能力をみる問題である。1は、基礎的な連立方程式の問題、2は、図形の回転体の表面積を扱った2次方程式の問題である。正答率は1が83.4(95.3)%、2が24.5(46.7)%であった。1の正答率が高いことは基礎的な表現力や処理能力が定着していることを表している。その一方で、2は正答率がやや低かった。問題場面を正しく把握し、回転体からおうぎ形と長方形の面積を正しく求め、文字を含む方程式であっても正しく処理する力が必要である。

4 は、図形についての基本的な証明や計量問題を通して、図形の領域における論理的思考力をみる問題である。1は、平行四辺形を折ってきた2つの三角形が合同であることを証明する問題。正答率は19.5(81.9)%であった。図形の移動に関する場面を考察する際は、普段から図形を実際に操作することを通して、図形を正しく捉えることが大切である。2は、平行線と円の2つの図形の性質を用いて考察する問題であり、(1)は、円の中心から補助線を引くことが正答への鍵である。正答率は3.1%であった。また、(2)は、おうぎ形と二等辺三角形の面積を正しく求めることが必要であり、その際に三平方の定理も用いることも必要なため、正答率は0.8%となった。図形を考察する際は、常にその図形の性質を意識することが大切である。

5 は、周回コースを走る3人について、速さと距離についての考察を通して、関数領域における関数的な見方や考え方をみる問題である。同じ方向や逆方向に走る2人の関係についての問題で、部分正答を含めた平均正答率は23.6%であった。普段の学習から、問題場面を正しく理解し、図やグラフを有効に活用し立式する力を身に付けることが大切である。

6 は、長方形をつないで作った図形に関して、いくつかの具体的な場面を考察することで問題条件を理解し、その場面を一般的に表現する力やその文字式を用いた論証能力など、複数の領域における数学的な思考力や表現力等をみる問題である。部分正答を含めた平均正答率は17.9%であった。日頃より、自らの力で粘り強く問題を理解することを心掛け、文字を用いてその場面を的確に表現し考察したり、事象の中に潜む規則性を見出したりすることを通して、主体的に課題解決に取り組むことが大切である。

数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率
1	1	97.0%	2	1	65.5% (72.7)	6	1	59.9%
	2	87.8%		2	67.6%		2	2.8%
	3	88.6%		3	50.1%		2	1.1% (5.5)
	4	82.1%	3	1	83.4% (95.3)	3	3	0.0% (3.2)
	5	93.4%		2	24.5% (46.7)			
	6	92.5%	4	1	19.5% (81.9)			
	7	85.5%		2	(1)	3.1%		
	8	75.3%			(2)	0.8%		
	9	64.0%	5	1	71.5%			
	10	77.2%		2	(1)	11.5%		
	11	62.7%			(2)	0.4% (10.8)		
	12	66.1%		3	0.6%			
	13	67.2%						
	14	73.1%						

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、物理的領域、化学的領域、生物的領域、地学的領域の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活と関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての関心と理解、基礎的・基本的な知識をみるようにした。
- 3 観察・実験についての基礎的な知識・技能をみるようにした。
- 4 観察・実験を通して、自然の事物・現象を科学的に調べ、論理的に思考する力をみるようにした。
- 5 自然の事物・現象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が62.6%、記述問題で67.2%であった。正答率が高かった問題は、**1**の地球型惑星の94.0%、**6**の進化の94.4%。一方、**5**の年周運動は29.6%と低く、分野によって正答率のばらつきが大きかった。教科書の基本的な事項をもらさず、丁寧に学習しておく必要がある。

2 は、双子葉類の体のつくりを踏まえて、植物が吸収した水の動きや使われ方について考察する力をみる問題である。**3**の植物が吸収した水の通る道筋を複数答える問題の正答率は35.1%と低かった。植物の体のつくりを、教科書の写真や図で視覚的に理解しておく必要がある。**4**は、葉に水を運ぶ目的について、題意を捉え、適切に表現する力をみた。普段の学習の中で、問題のねらいを正確に把握し、簡潔に文章にまとめる力を身につける必要がある。

3 は、定滑車と動滑車における仕事の原理について、現象を通して考察する力をみる問題である。**2**の滑車にはたらく力の向きと大きさは、誤答の**工**の選択が32.7%と、正答率の25.6%を上回った。また、複数の動滑車を利用したときの、力の大きさと引いたひもの長さについても、20.3%、21.4%と低かった。力の向きや大きさは、観察・実験を通して視覚的に理解することが難しいため、苦手意識を持ちやすいと思われるが、教科書の内容を丁寧に学習し、理解を深めておく必要がある。

4 は、地層やそれをつくる堆積岩について、観

察と実験を通して考察する力をみる問題である。**2**は、粒子の特徴から堆積岩について考察する問題である。岩石の名前を覚えるだけでなく、特徴についても理解し、説明できる力をつけておく必要がある。選択問題の正答率44.6%に対して、記述問題の正答率は35.7%であった。**3**は、地層に含まれる岩石の粒の大きさや、実験の結果から、地層ができた時代の環境を推察する力が求められる。

5 は、状態変化と密度について、ろうを使った実験を通して考察する力をみる問いである。凝固時に体積が変化する理由や、ろうの密度を求める問いは正答率が60%を超え、ある程度の定着がみられたが、**4**の物質の密度の違いをグラフから読み取る問いは、36.9%であった。普段から、グラフを読み取る問いに慣れておく必要がある。

6 は、遺伝の規則性を理解し、子や孫がもつ遺伝子と現れる形質について考察する力をみる問いである。**2**の正答率48.6%と**3**の①の74.6%の差から、遺伝の規則性を理解しないまま、教科書に記述された形質の割合をそのまま暗記している傾向が高いことがうかがえる。また、**3**の②は誤答である**ア**の選択が64.8%と突出しており、問題をよく読み、題意をおさえて解答する必要がある。正答率は9.3%と極めて低かった。

7 は、日本の春の天気の特徴を高気圧や低気圧、前線などの動きを踏まえて考察する力をみる問いである。気圧配置を見て、天気を推測したり、低気圧が通過した後の天気の変化を考察する力は、気候変動の激しい現代では重要な力となる。選択問題の正答率に比べ、**4**の理由を述べる問いは18.3%と低い。日本の春の天気の特徴は、教科書でも丁寧に解説されており、よく理解するとともに、文章にまとめる学習を日頃から行う必要がある。

8 は、手回し発電機による電気分解の実験を通して、発生する気体等について考察する力をみる問いである。電離を表す式の正答率は25.9%と低い。化学変化を式で表すことは化学変化に関係する原子やイオンの種類や数をとらえる上で重要である。また、**3**の気体を化学式で表す問いは正答率が38.3%であり、電気分解の量的関係の理解と、物質を式で表す両面から学習を進めて欲しい。

9 は、日常生活における電気使用について、電力や電力量、家庭での配線などを考察する力をみる問いである。**1**の電気抵抗、**2**の電気使用量とブレーカーの関係など、基本的な問いの正答率は60%前後と、概ね良好であった。**4**は普段はみることのない家庭での配線を考察する問題であるが、直列と並列の違いから正解を導けば良い。正答率は33.1%であり、選択肢としては低いものであった。

理 科 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	問 題		正 答 率	
1	1	94.0 %	4	1	82.4 %	8	1	25.9 % (42.1)	
	2	41.1 %		2	地層		44.6 % (44.8)	2	82.7 %
	3	74.9 %			理由		35.7 % (42.1)	3	気体
	4	40.3 %		3	46.8 % (92.3)		グラフ		62.8 % (74.1)
	5	29.6 % (29.8)	5	1	71.1 % (82.9)	9	1	56.0 % (59.9)	
	6	94.4 % (95.4)		2	67.8 %		2	64.7 % (76.9)	
	7	73.3 % (78.7)		3	61.7 % (65.2)		3	44.4 % (44.6)	
	8	71.5 % (71.6)		4	36.9 %		4	33.1 %	
2	1	80.2 % (83.7)	6	1	82.4 % (85.2)				
	2	81.6 %		2	48.6 %				
	3	35.1 % (52.5)		3	①	74.6 % (75.0)			
	4	53.2 % (74.5)			②	9.3 %			
3	1	77.1 % (77.2)	7	1	62.3 %				
	2	25.6 %		2	58.4 %				
	3	力		20.3 % (22.2)	3	60.0 %			
		長さ		21.4 % (23.3)	4	18.3 % (51.4)			

※ () 内は部分正答も含めた割合

英 語

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る、基礎的な力を主にみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体平均正答率は、75.9%であった。**1**は短い対話を聞いて適切に応答する力をみる問題である。5問の平均正答率は72.6%であった。**2**は対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は63.6%であり、各小問の平均正答率は(1)が61.1%、(2)が66.1%であった。**3**はまとまった長さの対話を聞いて、その要点を捉える力をみる問題であり、6問の平均正答率は85.2%であった。コミュニケーション能力を育成するためには、英語を聞いて必要とされる情報を正確に把握することのできる「聞く力」を育成することが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題で、基礎的・基本的な言語材料を活用した応答文などを素材にしている。6問の平均正答率は75.9%である。今年度も、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるため、語句を並び替える問題を出題した。この出題形式の3問の平均正答率は60.4%である。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える

力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。今年度はドイツの「シュールテューテ」と小学校の入学式を話題として扱った対話文を出題した。3問の平均正答率は46.2%であった。**1**の下線部が指す様子を答える問題は、正答率14.0%であった。**2**、**3**の文脈から概要を捉えて解答する問題は、それぞれの正答率が42.0%、46.7%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。**1**は日本語のメモをもとに夏休みの思い出を書く際に用いる英語を答える問題である。小問2問の完全正答率の平均は24.2%であり、中間点を含めると44.9%であった。**2**は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は18.1%であり、中間点を含めると43.0%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。**3**は英語で表現する力をみる問題である。今年度は、「テレビを見ることは中学生にとってよい」というテーマについて自分の立場を決めて、その理由を明確にして英語で表現する問題とした。完全正答率は1.3%であったが、中間点を含めると68.2%であった。英語を書いて自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図ることと、英文の構成力・表現力の育成を目指して、日頃から英語で表現しようとする取組を積み重ねることが重要である。

5 は、物語文を素材として用いる読解問題で、文脈に沿って内容を適切に理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、主人公と飼い犬との交流を描いた物語文を題材にした。4問の平均正答率は35.2%であった。**3**は、本文について、前後の文脈を理解した上で、空所に入る適切な英語を選択する問題を出題した。

6 は、説明文を素材とした読解問題である。今年度はおがくずの活用法についての説明文を出題した。4問の平均正答率は22.2%で、中間点を含めると40.9%であった。

英文の内容を説明したり、その要点を捉え概要をまとめる力を身に付けるためには、日常的にまとまりのある英文の読解に取り組むことも大切である。

英語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率	問		題	正答率	問		題	正答率
1	1	(1)	93.5 %	2	1	(1)	97.1 %	4	1	(1)	32.8 % (57.0)
		(2)	87.6 %			(2)	89.1 %			(2)	15.6 % (32.8)
		(3)	63.7 %			(3)	95.9 %		2	(1)	16.4 % (42.9)
		(4)	68.8 %			(4)	80.5 %			(2)	19.8 % (43.0)
		(5)	49.3 %			(5)	24.7 %	3		1.3 % (68.2)	
	2	(1)	①			51.4 %	(6)	68.0 %	5	1	27.6 % (57.6)
			②	70.8 %	(1)	92.6 %	2	14.9 % (69.4)			
		(2)	①	85.0 %	2	(2)	70.6 %	3		19.5 % (41.0)	
			②	47.1 %		(3)	18.1 %	4		28.5 %	
	3	(1)	98.0 % (98.5)	3	1		14.0 % (48.7)	6	1	17.5 % (70.1)	
		(2)	76.4 % (76.9)		2		42.0 %		2	3.7 % (12.7)	
		(3)	95.9 % (95.9)		3	①	29.7 %		3	61.3 %	
		(4)	70.4 % (70.6)			②	63.6 %		4	6.4 % (19.5)	
		(5)	80.2 % (87.8)								
		(6)	90.2 % (91.9)								

※ () 内は部分正答も含めた割合